

## 【目的】

「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた取組

目標に準拠した観点別学習状況評価の取組、ICT環境を生かした指導の工夫

## 【領域】

球技 （ゴール型） ハンドボール

## 1 実施の概要

- (1) 実施環境：体育館（Wi-Fi環境有り）
- (2) 使用機器：タブレット（教員用1台・生徒用4台設置）
- (3) 活用ソフト：PowerPoint（説明用）、Kinovea（遅延再生カメラ）
- (4) 対象：入学年次の次の年次 女子生徒28名（2クラス合同）

## 2 活用の実際

### (1) 「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業実践

#### 【学習の流れ】

##### 【導入】

- ・準備運動
- ・前時の復習
- ・本時の目標
- ・内容の確認

##### 【展開】

- ・アップ (パス)
- ・シュート観察  
(遅延再生カメラ)
- ・単発速攻

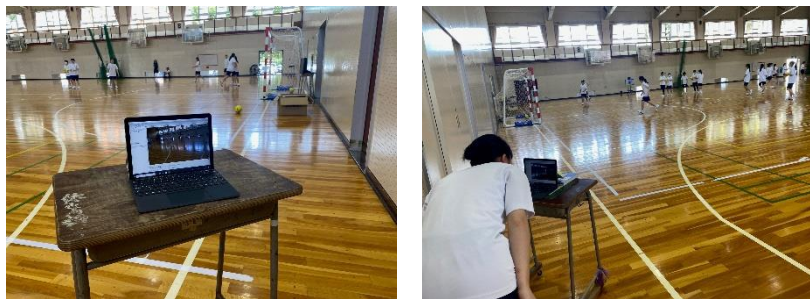
##### 【まとめ】

- ・本時の振り返り
- ・次時の確認

##### 【活用場面】 場面：展開

シュート練習において、遅延再生カメラを活用し自分や仲間のシュートフォームを撮影させ、ジャンプシュートの正しいフォーム（ボールの位置、利き手と反対の手の位置、片脚でジャンプしているか）を確認させるとともに、練習後にペアで互いにシュートフォームの改善点等を話し合わせた。

##### 【活用場面写真等】



### (2) ICTを活用した観点別学習評価の取り組み

##### 【観点別学習状況評価】

##### 技能

##### 【評価規準】

ジャンプシュートの正確なシュートフォームを意識して、ボールをねらった場所に打つことができる。

- ・ボールの位置
- ・利き手と反対の手の位置
- ・片脚でジャンプできているか

##### 【活用方法】

- ①シュート練習において、タブレットを活用し、ペアでシュートフォームを撮影させた。
- ②授業後、各自のジャンプシュートを撮影した映像を確認し技能の習得状況について確認した。

##### 【活用場面写真等】



## 3 参加した生徒の感想等

- ・遅延再生カメラを使ったのは初めてで、シュート直後に自分のフォームを確認することができ面白かった。
- ・普段は自分の運動している姿を見ることはないが、映像を見ることにより運動する姿を確認でき改善すべきことが分かった。
- ・下半身と上半身で違う動きをすることが難しかったけど、映像で確認できて少し理解できたような気がする。
- ・他の子の映像を見て、課題だけでなく「こうすると良いんだな」と良い部分の参考になった。
- ・自分では分からなかった改善方法を映像をみて友達から教えてもらえて理解することができた。

## 4 成果と課題

### (1) 「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業実践

#### 【成果】

遅延再生カメラを活用し、シュート直後に自分や仲間の動きを確認できるようにしたことで、自分や仲間のシュートフォームを可視化することができ改善点が明確になり生徒の意欲が高まり、主体的に何度も練習する姿が多く見られた。

#### 【課題】

遅延できる時間が短く、動画を確認できないことがあった。

遅延再生カメラの映像では自分の課題を発見することが難しい生徒もいるため、自分や仲間のシュートを記録した動画をもう一度視聴できるICT機器の効果的な活用方法を検討する必要がある。

### (2) ICTを活用した観点別学習評価の取り組み

#### 【成果】

観察の評価では、一瞬で生徒の動きを確認しなければならなかったが、授業後に改めて映像を確認することにより、授業の評価場面では確認できなかった細部を評価することができた。

#### 【課題】

シュートの場面を撮影し評価に活用したが、撮影場所や被写体の大きさが一定だったため技能の習得の度合いが確認しにくい部分があった。今後は撮影の角度や、被写体の大きさなど撮影方法を工夫する必要がある。